

平成28年度 第2回木更津市図書館協議会 会議録

日時 平成29年3月18日(土) 午後1時30分～2時40分

会場 木更津市立図書館 会議室

出席者 矢野直明委員 荻野敬次委員 中原まどか委員  
桂啓之委員 三上徳康委員 地曳典江委員

事務局 堀切由彦教育部長 渡邊雅夫図書館長 五味則子副館長  
鎌田節子副主幹

1. 三上議長挨拶

2. 部長挨拶

3. 議題

(1) 平成28年度事業報告について  
事務局から説明

(2) 平成29年度事業計画について  
事務局から説明

(3) その他報告  
事務局から説明

質疑概要

(議長) 議題1、平成28年度事業報告について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 概要説明(省略)

(議長) ただ今、事務局から報告がありましたが、委員の皆さんにご意見、ご感想をお聞かせいただきたいと思います。まず、桂委員をお願いします。

(桂委員) 毎回、事業報告を受けて図書館職員の努力に感心しています。年度毎の集計によると図書館利用者数が減ってきているようですが、図書館を利用者にアピールできることは、もっと実施して行って欲しいと思います。

(議長) ほんとうに頑張ってもらいたいと思います。次に中原委員をお願いします。

(中原委員) これだけの人数で、これだけの事業を行っていて、それも図書館から外へ出かけて行く事業も多いと思うので、相当大変なことだと思います。図書館に人を呼び込む方法は、他にどういうことがあるのか。広報にも毎月記事を出してくれているし、定期的に図書館よりも発行されていますが、それを手に取って読まなければ、気づかないし、もっと広い方向で、それこそ、場所の問題等違う視線で見れば、もっと人を呼べるのではないかと考えてみたいと思います。

(議長) そうですね。一番には、人が行ってみたい所、それには交通が便利なことですね。JR、バス、駐車場が完備すれば、一番いいモデルコースになると思います。図書館が蔵書だけの場所ではなく、コミュニティの場であること、そのためには、交通の便利な所、これが一番ですね。

(地曳委員) 活字離れということで、広報に載せてもあまり見る人がいなかったりするので、やはり、図書館に来やすい、行ってみようと思える便利さということが一番なのかなと思います。

(議長) 行ってみようと思えることは大事ですね。広報媒体が違ってきましたからね。

矢野委員いかがですか。

(矢野委員) 私は、学校の立場から、自校で木更津市で行っている評価システム、アンケートを行っているのですが、保護者対象、児童対象でアンケートを実施したところ、一番読書率が低く、これはひとつに先ほどの活字離れというのが顕著な部分なのか、また、地域性もありますから、馬来田からここまでなかなか来られないし、公民館と言っても、公民館の遊具で遊んでいる姿はよく見るのですが、中で本を読んでいる姿はなかなか見かけない。一応、学校には読書相談員さんが週2回派遣されて、図書室の管理も含めて呼びかけ等はしてくれているのですが、具体的な学校の中でのデータがないので、今ここにあるようなデータがあれば、傾向とか対策とか出せるのに、学校でもこういうことはやらないとダメなのかなと考えます。具体的に数値がないと、ただ感覚的に読んでいるのか、読んでいないのかだけでは、目安にならないというのがひとつあり、読み聞かせをボランティアの方が、1年生から6年生まで週1回は、各教室に入るようになっていますが、読み聞かせで耳からと絵からは本に触れているけれど、なかなか自分から入っていくというのが弱いのかなと、読み聞かせもありがたいのですけれども、それをしてもらったら次に何をするのかという手立てが、小学校のほうはまだ進んでいないような気がします。

蔵書については市のほうで予算取りしてもらい、数十万円という金額で新しい図書を毎年入れてもらえるので、大変感謝しております。今日この機会にこういうデータを見ましたので、4月から読書相談員さんとお話をしながら図書教育を進めていきたいと思えます。

(議長) ありがとうございます。それでは、荻野委員お願いします。

(荻野委員) 図書館協議会委員として反省しきりで、図書館の真ん前に居ながら、委員とて初めての年でしたので、こんなに事業を行っていたのがわかりませんでした。もっと神経をこちらに向けなくてはいけなかったのですが、これからは図書館の事業に興味を持っていくようにしていきたいと思えます。図書館の真ん前ですので、イベント開催の際は、駐車場を開放する準備は整えております。

(議長) 今、いろいろ意見が出ましたが、職員の皆さんには、ほんとうによくやっていただいて感謝しています。データの数値の部分はとても大事で詳細にさせていただいています。図書館というのは、若い人が来ると、今度はお父さん、お母さんを連れてきて、また、良ければ、おじいさん、おばあさんを連れて来る事になります。今度は年齢別のデータも欲しいですね。

(事務局) 資料としてお渡ししていませんが、年齢別一覧のデータがありますので、よろしければご報告させていただきます。

(議長) お願いします。

(事務局) 2016年4月1日から2017年2月28日と2015年4月1日から2016年2月28日を比較したもので、全体数で貸出冊数が1万7,283冊減少で、年齢別ですが、6歳以下が2,091冊減少、7歳～9歳が1,325冊減少、10歳～12歳が2,506冊減少、13歳～15歳が904冊減少、16歳～18歳が171冊減少、19歳～22歳が551冊減少、23歳～29歳が820冊減少、30歳～39歳が4,558冊減少、40歳～49歳が238冊減少、50歳～59歳が2,395冊減少、60歳～69歳が2,993冊減少、70歳以上が1,560冊の増加、年齢が不明の枠が1,242冊増加、学校や保育園に貸し出す団体貸出が1,496冊減少となっています。これは学校図書室も充実してきていますので、そういったことが要因のひとつかと考えます。30歳～39歳の減少幅が一番大きく、その中でも女性の減少幅が大きいというのが特徴であります。スマートフォンの関係が影響してい

るのかと考えているのですが、それと今まではあまり減っていなかった6歳以下が減っているのですが、若いお母さんが何かの関係で来られなかったことや、あるいは少子化が影響しているのではと推察しています。

(桂 委員) スマホはかなり普及してきて、ガラケーからスマホへの切り替え率がすごく高まっているので、その利用率からすれば図書館を利用する人は減るでしょうね。

(中原委員) 利用率が下がった30代後半というのが、子育てが始まってから、ちょうどお母さんが共働きに出て行ける年齢にあたるのではないかと思います。子供の数は今減っているのではなく、金田の影響等で今後も少し伸びるようですし、だから少子化の問題とは少し違うように思います。

(議 長) 矢野委員、学校の貸出数が減っているのは、学校図書室が充実しているからではとのことですが、そのへんはどうですか。

(矢野委員) やはり、子供の趣味嗜好というか、傾向についてアンケートをとっているかといえど定かではなく、大人の感覚の部分で、こういうのがいいのかなと選書しても、はたしてそれを読んでいるのか、興味関心があまりないですね。私などは、読み聞かせはすごく好きですし、低学年は絵本中心に大好きだし、高学年は教室で読んでいるかというあまり見かけませんね。中学生などは朝の時間に読書タイムとか、5分でもそういう習慣がないと厳しいですね。

(桂 委員) 読書感想文は減っているということはないですか。

(矢野委員) 作文ですと、小学校だと優秀なものは、相当指導を受けていると思われそうです。感想文も大人が引き出してあげないと、なかなか厳しい場面もあり、限られた字数の中で書けない子も出てきます。

(議 長) 家庭の重要性というのも、教育では大きいのですが、その分を学校に期待する部分が大いなものですから、ただ、創造性とかそういう部分が非常に落ちているということがあるそうです。

(桂 委員) 先ほどの部長のご挨拶にありました、公共施設再配置計画について、何か具体的にこういう方向に進むという案などは出ているのですか。

(堀切部長) 基本的には、今木更津市の人口がまだ若干伸びていますが、あと数年すると減少が見込まれる中で、市が所有している施設が将来的にも維持していくことが出来るか、出来ないでしようというのが、基本的なスタンスで、それを減らしていかなければならない、最適化を図っていかなければならない。そういう中で施設の統合であったり、複合化、例えば公民館と図書館、それぞれ別々にあったものを複合化して建てるとか、そういうことを今後考えていかなければいけないでしようということ、概ね30年間の計画、短期、中期、長期で進めて行きましょうということ、この3月に策定しました。図書館については、中期、約10年から20年の間に建て替えの方向で検討していきましょうという位置づけになっています。具体的には、これからの検討ということになるでしょうけれど、図書館の機能として、ロケーションというか、場所、維持も含めて当然条件等もあるでしょうから、それらを踏まえて、どこにどういう形でというのが今後の具体的な検討になってくると思います。図書館を考えた場合に交通条件が非常に重要だという意見をいただいています。確かに駅前であれば各種交通機関が集中していますから、交通機関利用者にとっては非常に便利であるという側面はあります。一方、駅前ですと、なかなか広い駐車場が確保できないというデメリットがあり、そういうことを踏まえ、どうしていくのかというのが今後の検討課題かと思っています。

(桂 委員) 今の流行りがあるじゃないですか。ツタヤと合併させるとか。そういう中身を含め

て検討内容となるのですか。

(堀切部長) 一時、ツタヤさんと組んで、カフェを中に入るとか流行った時期があるのですが、最近それがいろいろ反省されている事例も出てきています。事例を挙げると図書の購入が一定の方向に偏ってしまっているとか、そういう弊害もところどころ言われてきています。必ずしも良い面だけではなくて、デメリットな部分もあるようでございますので、今後十分検討していかなければならない課題だと思います。

(中原委員) 近隣市では、民間が入りはじめてきていると聞いていますが、木更津市では今のところはないのでしょうか。

(事務局) 木更津市の場合は、議会等でも、基本的には、直営でやっていきたい旨ご答弁申し上げています。近隣市は、聞くところによると窓口関係の民営化ということらしいのですが、具体的な話はまだ情報としてありません。近隣市の良いところ、また、弊害なども検討しながら、木更津市は直営がいいのではないかと現状ではそういった方向性で考えています。

(中原委員) もし万が一、そういうことがあるのなら、他市でやってくださったような勉強会を、みんなに対して、良いところや、デメリットなどを説明する場があると分かりやすいなと思います。

(事務局) その際は、最初に図書館協議会などでご説明させていただきます。

(桂委員) 木更津市は、図書購入費一人当たりの単価を上げましょう。

(堀切部長) そのことについては、つい先日も議会の予算審査特別委員会でご指摘を受けています。

(議長) それでは、平成 29 年度事業計画について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 概要説明(省略)

(議長) ただ今の説明について、質問のある方は、中原委員いかがですか。

(中原委員) 図書館事業で司書の職員が外に出かけなくてはならないのは分かるのですが、司書の方はなるべく図書館に残っていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(議長) 私は、若い年齢層の創造性、思考力がこれから大きな日本の課題になるのではないかと思います。今は、考える力、自分でどうしようかとする力が、少ない感じがします。学校側と協力し、子供たちの創造性、思考力を引き出していって、ゲームをやって、与えられた空間で時間を過ごすだけでなく、図書等も利用し引き出せばいいのではないかと、子供たちや、家族とか若いお母さん方を見ていてそう思います。ただ、今の子供たちやお母さん方の一番良いところはすぐに仲良くなるのですよね。集まればすぐ子供どうしで仲良くなる。ただそういう部分も含めてコミュニティ的な部分での図書館の役割がもっと大きくなるのではないかと、今までの図書館の役割にプラスして考えていただければと思います。

議題第 2 号について他に意見がないようでしたら、その他報告について事務局から説明願います。

(事務局) 概要説明(省略)

(議長) ホームページの作成は、職員が行っているのですか。

(事務局) 最初は業者が入りましたが、その後は職員が更新していますので、是非、皆さんもホームページをご覧になってください。

(議長) 危機管理マニュアルは、現在作成中ということですか。

(事務局) 第 1 章の危険等発生時の基本的な対応について、第 2 章の危険発生時における対処

のポイントについては、すでに作成しております。木更津市は学校危機管理マニュアルがすでに出来上がっておりますし、木更津市の危機管理マニュアルもありますので、図書館でも、そういった多方面なものと整合性を持たせながら、第1章、第2章は作成いたしました。

第3章は図書館内部のトラブルに関しての、我々の対応についてという趣旨で作成しているところです。ついては、1章、2章が完成しましたので、中間報告しようというものです。

(議長) ただいまの報告事項や、議題1号、2号も含めて何か意見はございますか。

(矢野委員) 私も、本屋に行って欲しいものがないと、ネットで本を買ってばかりいますが、図書館になるべく足を運んでいきたいと思えます。

(議長) 本日は、貴重な意見をいただき、これからの図書館の運営についてご協議いただきありがとうございました。平成28年度第2回図書館協議会をこれにて終了させていただきます。本日はお疲れ様でした。

議事録署名人 委 員 中原 まどか

委 員 地曳 典江